

タイトル：2022年度 教育セミナー（第18回）

日時：2022年9月15日（木）～18日（日）

ハイブリッド開催

「マムルーク朝とジョチ・ウルスの使節派遣に見られる正統性顕示の諸相」

山下 智也（九州大学大学院人文科学府）

私が所属する九州大学では、例年修士課程一年の学生が教育セミナーに参加させていただいております。先輩方から様々な体験談を伺うなかで、自らの成長につながる何かを得られるのではないかと考え、私も参加・発表させていただきました。今年度はハイブリッド形式での開催であったこともあり、私自身は東京外国語大学を訪れ、対面で参加させていただきました。以下、雑駁ではありますが、私の感想および評価を述べさせていただきます。

まず、多くの先生方や学生の皆様の発表を拝聴できた点が有意義でした。時代・地域・分野が異なる様々な発表を伺うなかで、新たな知見を得ることができたと同時に、自身が研究対象としている中東やイスラームについて改めて考えなおすきっかけにもなりました。そして何よりも、同世代の大学院生の皆様が、これほど意欲的に研究に取り組まれていることに大いに刺激を受けました。本セミナーを通して得られた知見や刺激は、今後の自身の研究にしっかりと生かしていきたいと思えます。

次に、自身の研究を見直す良い機会となりました。前述のように、私は本セミナーで研究発表を行わせていただきました。それまではゼミなどにおける学内向けの発表しか経験したことがなかったため、自分にとっては初めての挑戦でした。どのようにすれば、専門やディシプリンが異なる方々に対して発表内容を的確に伝えられるか、準備段階から深く考えさせられました。本番の発表では、先生方や受講生の皆様から、今後の研究につながる重要な指摘をいただきました。これらは今後の研究のなかでしっかりと咀嚼し、学会報告や修士論文に反映させていきたいと思えます。

そして、本セミナーの最大の意義は、先生方や受講生の皆様との交流にあったと思えます。講演や発表の時間に限らず、休憩時間や昼食時の雑談、自分の発表後にいただいた感想やご指摘、これらすべてが大変貴重なものとなりました。特に、同世代の皆様と直接交流し、コネクションを広げられたことは、普段九州の地にいる自分にとっては重要な意味を持っています。大学院生となり、周りにいる同世代の人間が相対的に減少するなかで、各地にいらっしやる受講生の皆様の存在を実感することができ、心強さを感じたような気がします。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症がいまだ収束の気配を見せないなか、セミナーの準備・運営をしてくださった先生方や千葉様、交流させていただいたすべての皆様に改めて感謝申し上げます。